

大田園都市飯田の誕生

一市七ヶ村が合併

人口七万・面積一九八平方軒

町村合併促進法を重んじた未合併すべきとの結論。法昭和二十八年十月に施行されて以来、その法律の主旨に従って隣接町村との幾多の交渉、協議の結果住民の福利向上のため大同団結して新市を建設する事に関係町村の意見が一致し、飯田市、伊賀良村、下久堅村の一市七ヶ村が数次に亘り協議、研究を重ねた末合併すべきとの結論。三十日待望の田園都市飯田が誕生した。

新市は多美共以下伊那郡下唯一の都市をなし、構成の主要地域は中心の八幡、竜丘村の時々に形成している。

市は東西二百四軒、南北十二・三軒、面積は百九十八・七七平方軒を有している。

又飯田市は諸種の官公署、銀行、学校、公民館等があり商業者は年々増加している。郡下の大小工場、市場が集中し、中心街より放射状に五大幹線が郡外、県外に通じ、名古屋、豊橋、伊那、諏訪方面を本市を基点としてそれぞれバス、トラックその他が通行し、交通上の中核地帯である。

人口は昭和三十年の国勢調査によれば、六万九千五百七十人であり、今後の人口増加率は急速に増大するものと云われている。【写真は調印式に参する村長】

海抜四百乃至六百メートルの洪積層合地の地域は二地域からなっている。市街地は旧飯田市の全区、松尾村の八幡、竜丘村の時々に形成している。

市は東西二百四軒、南北十二・三軒、面積は百九十八・七七平方軒を有している。

又飯田市は諸種の官公署、銀行、学校、公民館等があり商業者は年々増加している。郡下の大小工場、市場が集中し、中心街より放射状に五大幹線が郡外、県外に通じ、名古屋、豊橋、伊那、諏訪方面を本市を基点としてそれぞれバス、トラックその他が通行し、交通上の中核地帯である。

人口は昭和三十年の国勢調査によれば、六万九千五百七十人であり、今後の人口増加率は急速に増大するものと云われている。【写真は調印式に参する村長】

去る昭和二十八年十月の要請。結成を見るに至り、将来の住民福祉の基盤を確立することの出来まで、わが竜丘村は他の町村に比しては誠に磨きを施さないうと云うべきであらう。

然し乍ら直ちにその効果が明日に目出度く一市七ヶ村合併のより現れることを望むことは出来ません。むしろこの二三年は知日との成果を得た事は、村民の団結力とねばり強い気質と意志を誇りに存じます。その点村民各位の深い御理解により、真に協力し、住民福祉の招来を期待しつつ、新市の発展に努力されんことを切望する次第であります。

願ひに合併に賛意を持って、この事に賛成し、その間に波瀾曲折いろいろの主義主張も充分検討せられたが、この三年間わが竜丘村は始終一貫して大自撻といたします。

町村合併促進法期限ぎりぎりから従って漸くお互が新市民の一員としての事最後の練へすべしと云うことになった。飯田市時又、字敷料と呼ばれ、新市役所職員や市議の出来は来たが、市庁舎も中学も乗の出すわけで、時代の要求、道路も水道も、合併も出来たから

町村合併促進法期限ぎりぎりから従って漸くお互が新市民の一員としての事最後の練へすべしと云うことになった。飯田市時又、字敷料と呼ばれ、新市役所職員や市議の出来は来たが、市庁舎も中学も乗の出すわけで、時代の要求、道路も水道も、合併も出来たから

合併に際して 前島 秀夫

町村合併促進法期限ぎりぎりから従って漸くお互が新市民の一員としての事最後の練へすべしと云うことになった。飯田市時又、字敷料と呼ばれ、新市役所職員や市議の出来は来たが、市庁舎も中学も乗の出すわけで、時代の要求、道路も水道も、合併も出来たから



発行人 木下 右治
編集人 編集部
印刷所 信州印刷 K K

祝合併
編集部一同

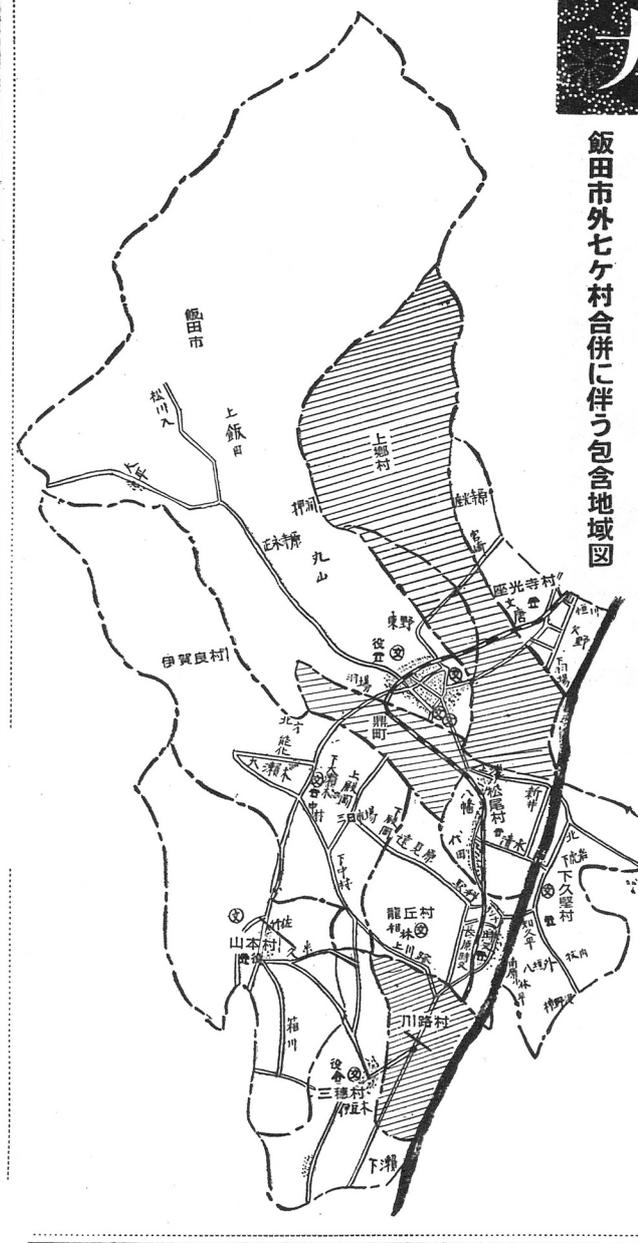
新飯田市誕生に当りて
林 省三

合併促進協議会の委員

文教 北沢小太郎、下平恵敏
商工 副委員長 伊原春男
農林 下平広志、塚平隆雄
社会 中平恒郎、代田きよ子
土木 今村恵一、中島豊

伝統ある龍丘消防 団形式を厳密に奉行

合併にともない消防団では飯田市消防団として発足するため、四十余年の伝統ある龍丘消防団を九月二十九日に解散した。同日は最後の村長の閣下があり、村長訓辞、団長挨拶、来賓の祝詞が述べられ、団旗の返還を行い厳粛なる式を閉じた。



飯田市外七ヶ村合併に伴う包含地域図

飯田市、上飯田、下飯田、伊賀良村、下久堅村、松尾村、竜丘村、八幡村

合併促進協議会の委員

文教 北沢小太郎、下平恵敏
商工 副委員長 伊原春男
農林 下平広志、塚平隆雄
社会 中平恒郎、代田きよ子
土木 今村恵一、中島豊

合併促進協議会の委員

文教 北沢小太郎、下平恵敏
商工 副委員長 伊原春男
農林 下平広志、塚平隆雄
社会 中平恒郎、代田きよ子
土木 今村恵一、中島豊

合併促進協議会の委員

文教 北沢小太郎、下平恵敏
商工 副委員長 伊原春男
農林 下平広志、塚平隆雄
社会 中平恒郎、代田きよ子
土木 今村恵一、中島豊

合併促進協議会の委員

文教 北沢小太郎、下平恵敏
商工 副委員長 伊原春男
農林 下平広志、塚平隆雄
社会 中平恒郎、代田きよ子
土木 今村恵一、中島豊

合併促進協議会の委員

文教 北沢小太郎、下平恵敏
商工 副委員長 伊原春男
農林 下平広志、塚平隆雄
社会 中平恒郎、代田きよ子
土木 今村恵一、中島豊



写真は解団式

臨時教育委員

臨時教育委員は、新市発足の九月三十日に、臨時教育委員に旧市村の教育委員の中から一名を任命し、柳原文四郎(座光寺)山下嘉助(松尾)代田市郎(竜丘)土屋一美(二種)片山卓(伊賀良)本下耕作(山本)小池憲一(下久堅)松本太郎(飯田)の八名を任命した。

その八名は互選の結果正委員五名、準委員三名を決めた。

委員長 代田 市郎
副委員長 片山 卓
委員長代理 松本 太郎
委員 柳原文四郎
(他の三名は準委員として任命)

臨時教育委員

臨時教育委員は、新市発足の九月三十日に、臨時教育委員に旧市村の教育委員の中から一名を任命し、柳原文四郎(座光寺)山下嘉助(松尾)代田市郎(竜丘)土屋一美(二種)片山卓(伊賀良)本下耕作(山本)小池憲一(下久堅)松本太郎(飯田)の八名を任命した。

その八名は互選の結果正委員五名、準委員三名を決めた。

委員長 代田 市郎
副委員長 片山 卓
委員長代理 松本 太郎
委員 柳原文四郎
(他の三名は準委員として任命)

田園都市の成立

大きなもの産みの娘... 田園都市の成立... 田園都市の成立は、田園都市の成立は、田園都市の成立は...

新飯田市建設計画

一、新市名 飯田市... 二、新市建設の基本方針... 三、市村役場、支所、又は出張所の統合整備に関する事項...

関係市村の概況

一、人口... 二、実態生産戸数... 三、土地... 四、人口... 五、人口...

Table with multiple columns: 市村名, 飯田市, 座光寺, 松尾, 龍丘, 伊賀良, 山本, 下久堅. Includes financial and demographic data.

新規事業施設の増新改築の施行に伴う財政五ヶ年計画

Table with 6 columns: 昭和32年度, 昭和33年度, 昭和34年度, 昭和35年度, 昭和36年度. Rows include 事業費, 補助金, 起債, 一般財源.

